

「歴史から学ぶことの大切さ」

私たち3年生は、戦後80年を迎えた今年、アジア・太平洋戦争が起こった経緯をたどることで、改めて命の大切さについて考え、これからの将来、決して同じ過ちを繰り返さないために、日々何を大切に生活をしていけばいいのかを考える授業をしました。

1941年当時、日本は石油を求めて東南アジアへ進出していきました。しかし、それに反対したアメリカは、日本への石油の輸出を禁止し、さらには、ハル・ノートを提示してきました。ハル・ノートには日本に対して「中国、東南アジアから出ていけ。満州を元に戻せ」などが書かれていました。どの内容も日本にとっては到底受け入れられないものでした。このままでは日本の石油が減っていく一方で、日本は「いずれアメリカと戦争をするなら早いほうが良い」と考え、ハル・ノートの提示から1ヶ月もしないうちに、12月8日、日本はアメリカの真珠湾を攻撃しました。

私は、日本がとった行動に対して、「あまりにも戦争を決意するのが早すぎたのではないか。」と思いました。日本の東南アジア進出に対してアメリカが反対したとき、日本は別の道を探るべきだったのではないかと思います。戦争か資源か、どちらを優先するのが大事だったのか……。

戦争をしないためには、「歴史から学ぶこと」が大切だと感じました。過去のことはもう起こってしまった出来事なので変えることはできないけれど、そこから未来にどうつなげるかによって、将来は大きく変わっていくと思います。太平洋戦争は避けられなかったのかもしれないけど、もしハル・ノートを受け入れていたら、東南アジアへ進出していなかったらと、いろいろな想像ができます。でも、その当時の人の最善の選択の行動なので正解が何かはわかりません。自分にとっての最善の行動とは何か、正解がはっきりしていない中、もっと考えていきたいです。この先、戦争が起こらないためにどうすべきなのかを考えていきます。

また、日本人の中で真珠湾を攻撃した日が12月8日だと知っている人はあまり多くありません。しかしアメリカ人は、12月8日を「真珠湾を攻撃された日」としてほとんどの人が知っています。これは、攻撃した側とされた側の立場の違いかもしれません。こんな関係は、今の私たちの生活の中でも見られません。戦争は小さなことからだんだん大きくなって、ついには戦争になるかもしれません。

過ちを繰り返さないためには、まずは”知識”をつけること、知ろうとする意識を持つことが必要不可欠なのではないかと思います。

皆さんも一度、歴史から学んでみてはいかがでしょうか。